

課題 NO1 産地を形成する多様な担い手のステップアップによる

いちごの産出額向上(R4~R6)

1 対象名 石巻いちご生産組合(16戸), 河南いちご生産組合(13戸), やもといちご生産組合(7戸)
(株)いちごランド石巻, (株)トライベリーファーム, (株)アグリパレット, (株)黄金ファーム
(株)イグナルファーム, (株)サンエイト, (株)アソラ

2 目標

(定性的目標)

- ・JA 部会員において環境測定機器を用いた適切な施設内環境管理等の新しい技術が普及拡大する。
- ・各農業法人のステップアップに向けた課題・目標が明確になり改善に向けた取り組みが行われる。
- ・新規参入者が基本技術を習得する。

(R4:定量的目標)

- ・R4 年産いちご販売金額 76.3 千万円

3 活動内容, 成果の概要(○)及び下半期の計画(◎)

(1)JA 部会への環境制御等新たな技術普及支援

- 環境制御など新たな技術の取り組みにより R4 栽培では平均収量が前年 3.8/10a→4.0t/10a と向上し, 販売金額も前年よりも約 19 百万円増加して 378 百万円となった。
- R5 栽培の収量, 金額向上に向けて育苗や本ほ準備の改善が進んでいる。
- ◎本ほにおいて環境測定データに基づく栽培管理方法の指導を継続し, 技術レベルの向上を図る。

(2)各農業法人の課題改善支援

- R4 栽培では施設内環境制御, 品種特性に応じた管理などを中心に指導を行い, 収量・販売金額が増となった法人 3, 減となった法人 1, 現在調査中 1 となっている。
- 各法人が課題点, 改善に向けた取り組み方を確認し, 育苗, 本ほ準備の改善に取り組んでいる法人もある。
- ◎課題改善に向けて各法人に応じた対応の手法で個々に支援を行っていく。

(3)新規参入者への基本技術指導

- (株)黄金ファーム: 基本的な作業レベルからの指導を行い, 1 作目は 3.5t/10a(土耕)となった。規模拡大, 補助事業導入の支援を行い次作では 15a→26a に拡大し高設栽培を中心とした栽培になる。
- (株)アソラ: 1 作目に向けた育苗管理指導を行い, 栽培の準備が適切に進んでいる。
- ◎黄金ファームは規模拡大となる 2 作目, アソラは 1 作目に向け作業レベルから基本技術を指導する。

4 対象からの意見及び評価

環境制御技術の取り組み等により確実に収量が向上していると感じています。さらに技術を向上して収量, 販売額を増やし, コストが上がっている分を補いたい。指導の継続を要望します。(JA 部会役員)



JA 部会の現地検討会



根の状態を確認し改善点を検討



採苗について基本作業指導

課題 NO.2 課題名 地域のモデルとなる園芸法人の育成強化 (R4~R5)

1 対象名 (有) サントマト石巻, (株) DannyFarm, (株) 絆粋ファーマーズ

2 目標

(定性的目標)

- ・ 課題対象が導入した施設・設備の特性を理解し、収量が向上する。

(R4:定量的目標)

- ・ 出荷量 基準年比 105%

3 活動内容, 成果の概要(○)及び下半期の計画(◎)

(1)生産技術高度化支援

- 生育・環境データに基づく管理の指導：(有) サントマト石巻, (株) DannyFarm
環境データ, 生育, 収量調査を行い, ウィークリーレポートの作成や環境データの確認・分析等を行い, データに基づく栽培上の改善点を提案している。
- 土壌分析に基づく土壌管理指導, 病虫害防除指導：(株) 絆粋ファーマーズ
ほうれんそうの生育ムラがみられたため, かん水方法の指導を行い, 改善している。
萎凋病, ホウレンソウケナガコナダニの被害をが確認されたため, 土壌消毒, 害虫防除方法について指導を行い, 適正な防除を実施している。
- 施設なす栽培視察研修：(株) DannyFarm
J A古川なす部会副部会長の施設なす栽培の視察を行い, 栽培技術の確認, 見直しになった。
- ◎ 土壌分析や環境測定データに基づいた栽培管理の指導を継続し, 技術の高度化を支援する。

(2)効率的な生産管理体制支援

- ・ (株) 絆粋ファーマーズ
- 農業生産管理システムの確認 品種, は種日, 収穫日, 収量データについて, 調査中である。
- ◎ 農業生産管理データ整理, 年間栽培実績の取りまとめ
- ◎ 農業生産管理データの見える化, 栽培計画作成支援

4 対象からの意見及び評価

生育調査, 栽培管理について巡回いただき, また, 他産地への視察により, 栽培技術の確認と見直しができるようになっている ((株) DannyFarm 役員)。



施設なす栽培視察研修 (大崎市)



トマトの生育調査



ほうれんそう収穫状況

課題 NO3 地域活性化に向けた高収益作物(アスパラガス)の導入・定着 (R2~R4)

1 対象名 アスパラガス経営体 20 経営体

2 目標

(定性的目標)

- ・アスパラガスの生理・生態を理解し、アスパラガス採りつきり栽培方法を習得する。
- ・販売実績を踏まえ、生産者が主体的に販売戦略を検討する。

(R4:定量的目標)

- ・アスパラガス栽培面積 R4 100a

3 活動内容, 成果の概要(○)及び下半期の計画(◎)

(1)技術習得による安定生産

- アスパラガス栽培管理勉強会は、パイオニアエコサイエンス(株)松永邦則氏を講師に、(株)パスカファーム立沼で4月6日定植編(29人)、7月7日支柱・病害虫編(12人)を開き、採りつきり栽培の習得を図った。
- 採りつきり栽培の収量・販売実績は、石巻市場へ出荷した場合、収穫期間4月13日~6月30日、販売量19.1kg/a、販売額28,148円/aで前年比170%となっている。直売所中心の販売実績は集計中である。
- 6月に桃生町の新規就農者2人が東松島市と河南のハウス立茎栽培を視察し、立茎栽培を開始した。

(2)直売・市場出荷等の販売力向上

- ◎コロナの感染拡大と豪雨被害等により8月開催予定の販売戦略会議を延期、他産地のアスパラ栽培や販売方法を学ぶため、山形等先進地から講師を呼び、9月にセミナーを開催する。

(3)ネットワークの向上によるアスパラガスの導入定着

- SNS(東部地方振興事務所公式 Instagram, Twitter)での販売開始をPRした
- ◎引き続き普及ブログで情報発信を予定

4 対象からの意見及び評価

春先の地元産のアスパラガスは高収益作物として有望だが、直売所や市場から長期安定出荷が望まれており、採りつきり栽培とハウス立茎栽培を組合せて取組みたい(アスパラガス研究会会員)



アスパラガス栽培管理勉強会(定植編)



アスパラガス栽培管理勉強会(支柱・病害虫編)

課題 NO4 課題名 長面地域における大規模土地利用型経営体の 持続的な水田農業の実現(R4～5)

1 対象名 (株) 宮城リスタ大川, (農) みのり, (株) ゆいっこ

2 目標

(定性的目標)

- ・堆肥施用による土づくりと、効率的な施肥技術（速効性と緩効性肥料成分の組み合わせ）により、飼料用米の収量向上と安定が図られる。
- ・大規模土地利用型法人において、乾田直播栽培技術による飼料用米生産において低コスト化技術が構築される。

(R4:定量的目標)

- ・沿岸部の地力の低い水田地域における飼料用米の収量 R4 480kg/10a

3 活動内容, 成果の概要(○)及び下半期の計画(◎)

(1)飼料用米の栽培技術向上支援

- 追肥要否判断についての勉強会開催（7/21, (株) 宮城リスタ大川 8人）
- 実証ほ4か所*の生育調査の実施（1回）。※堆肥, 速効性・緩効性肥料の施用量が異なる区を設置。
- 実証ほ視察と関係者の情報共有を目的とした現地検討会開催（7/25, 21人）。土づくり（堆肥施用）の重要性, 追肥要否の助言
- ◎収穫適期の判断に関する勉強会, 次年度の栽培に関する勉強会（2回）, 成績検討会（1～2月）の開催, 成熟期・収量調査

(2)飼料用米乾田直播栽培の導入支援及び効果の検証

- 前作大豆, 前作水稻の乾田直播実証ほ2か所の生育調査の実施（6～8月, 1回）
- ◎（1）と同じ

(3)飼料用米・WCS 用稲導入効果の検証支援

- WCS 用稲で発生した生育不良の原因の考察（土壌, 用水の分析）。WCS は刈り取り中（8/22 現在）
- ◎飼料用米収穫状況確認, 飼料用米・WCS 用稲の導入効果検証, 土壌調査, 実需の反応調査

4 対象からの意見及び評価

- ・堆肥施用による土づくりの効果を実感している。実証ほから, 肥料の組合せの勘所をつかみつつある。
((株) ゆいっこ役員)
- ・追肥判断の助言が, 参考になった ((農) みのり社員)



飼料用米の栽培管理打合せ
((農) みのり)



追肥要否判断の勉強会 ((株) 宮城リスタ)



実証ほでの現地検討会